

令和 2 年 6 月 28 日現在

機関番号：33936

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2019

課題番号：15K11909

研究課題名（和文）養護教諭の危機管理能力を高める実践研修プログラム開発

研究課題名（英文）Development of a practical training program to improve the crisis management skills of Yogo teachers

研究代表者

三並 めぐる（Minami, Meguru）

人間環境大学・松山看護学部・教授

研究者番号：20612948

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：養護教諭の危機管理能力を高める実践研修プログラム開発を行った。救急処置における緊急性の高い多重課題のシミュレーションプログラムとして「1.緊急時に第一印象をとらえる方法を確認できる。2.ABCDにもとづいた臨床判断の根拠を確認できる。3.緊急時の職場連携の方法について確認できる。」実践プログラムを構築した。

実践研修プログラムは【イメージしやすい】【具体的で理論的】【日常を振り返られる】【自信につながる】【課題が見える】という効果があり、養護教諭に【自信をつける】【執務に活かせる】【教職員に上げられる】【学校内の役割を活かせる】という自信や確信、さらには教職員との連携を活かせることに寄与していた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

養護教諭は「瞬時に軽症者が多数でも選別できる」が「休養者がいると絶えず不安」「学外では重傷対応が求められる」「救急処置のスペシャリスト」と勘違いされ「病院のような専門的救急対応」が求められる。突然の予想しない傷病者対応に「段々怖くなる強い不安」を抱えながらも「多重課題への救急対応」「日常の備え」を求めている。

そこで、緊急性の高い多重課題の実践プログラムを構築したところ【イメージしやすい】【具体的で理論的】【日常を振り返られる】【自信につながる】【課題が見える】という効果があり、【自信をつける】【執務に活かせる】【教職員に上げられる】【学校内の役割を活かせる】と養護教諭の危機管理能力を高めていた。

研究成果の概要（英文）：We developed a practical training program to improve the crisis management skills of the Yogo teachers. As a simulation program of multiple tasks with a high degree of urgency in emergency treatment, "1. You can confirm the method of capturing the first impression in an emergency. 2. You can confirm the basis of clinical judgment based on ABCD. 3. You can see how." I built a hands-on program.

Practical training programs have the effects of [easy to imagine] [concrete and theoretical] [reviewing daily life] [leading to self-confidence] [visible problems], and [improving self-confidence] [useful for work]. It contributed to the confidence and conviction that [to be able to spread to faculty and staff] and [to make the best use of the role in school], and to utilize it for cooperation with faculty and staff.

研究分野：看護教育

キーワード：養護教諭 救急処置 危機管理 シミュレーション プログラム

## 1. 研究開始当初の背景

児童生徒が多くの時間を過ごす学校は、学習と生活の場であり児童生徒等の健康と安全確保が命題となっている（瀧野 2011）。平成 23 年度学校管理下の児童生徒等の災害による日本スポーツ振興センターの医療費件数は約 210 万件（死亡 82 件、障害 381 件）で、支払い総医療費は約 193 億円である（日本学校保健会 2014）。特に、体育活動中の傷病別発生頻度は、突然死(61%)、頭頸部外傷（13%）、脊髄損傷（11%）、溺水、熱中症となっており、その場での的確な対応が求められる。また、学校給食における食物アレルギー事例件数は平成 17～20 年度で 804 件発生し、死亡事故につながる重篤なアナフィラキシーも報告されている。このように学校における災害発生件数は年々増加の傾向にあり、危機管理対応は最優先課題となっている。養護教諭の保健室での職務に占める救急処置割合は、小学校で 51.5%、中学校で 43.4%であった。このように養護教諭は、救急処置に関して常に新たな知識や的確な技能を習得していく必要がある(塩田：2010)。また、教職員への救急法研修会の企画や実施、評価が任されている。

児童生徒が負傷した時に最初に接するのは学級担任や教科担任、部活動顧問等一般教員の場合が多い。しかし、一般教員の救急処置に対する知識、技術には個人差があり（鈴木、2011）、いつ起こるかかわからない事故に対し「子どもを預かる教員として当然応急処置にかかわってほしい」「応急処置の知識や技術の指導が必要である」と 8 割の養護教諭が思っている（金田他、2009、）。

また、学校において、傷病者と一緒に活動していた生徒たちがその場でいち早く適切な処置を行えることは、救命率向上につながり、生徒に対しても救急処置の知識や技術の定着を図る必要がある（大野 2012）。学校での AED 設置割合は 84%、校内教職員対象の救急処置研修を開催している割合は 80%であり、救急法研修指導者は「消防士」83%、「日赤の指導員」15%、「講習を受けた教員」10%、「養護教諭」7%の順であり(島田、2012)、児童生徒の心身の健康状態を最も把握している養護教諭が学校危機に備え、学校全体の危機管理能力を高める方策を探ることは意義がある。

## 2. 研究の目的

本研究では児童生徒等の命を守るため学校危機に迅速・的確に対応できる養護教諭の危機管理能力を高める実践研修プログラムの開発を行うことを目的とする。

## 3. 研究の方法

- (1) 災害時に求められる養護教諭の役割を明らかにするために、文献検討を行う。
- (2) 災害時に求められる養護教諭の役割に関する自由記述の質的研究を行う。
- (3) キャプラン、ラザルス、ゴーラン、フレデリック、ガリソンらの危機モデルを用いて、調査の研究枠組みを作成する。
- (4) 養護教諭が行う救急処置における危機管理実践プログラムの構築にむけて養護教諭

を対象に、グループインタビューを実施する。

- (5) 学校で養護教諭が遭遇する可能性のある「多重課題」への救急対応のシミュレーションプログラムを作成する。
- (6) 養護教諭を対象に1回目のシミュレーションプログラムを実施し、危機管理能力が高められる実践研修プログラムであるかどうかの評価と検討を行う。
- (7) 養護教諭を対象に、熱中症、頭部打撲、心肺停止と頭部打撲の複数同時発生事例「多重課題への救急対応」の2回目のシミュレーションプログラム実施し、評価する。

#### 4. 研究成果

##### (1) 研究の結論

養護教諭の役割として【子どもの命を守る】ために【瞬時の見極めと対応】によって学校組織の中で【救急処置のリーダー】として、【変化する多様な対応】を求められていた。養護教諭は、学校内外や教職員から児童生徒にいたる人々の【力を結ぶ】コーディネートを行いつつ、保健室の機能を発揮し【ここでなら安心空間】を整えていた。同時に【自分の健康と専門性】のバランスを保ちつつも、家族を残して被災者の対応ができるかどうか【公私の不安】も抱えていた。さらに的確な対応と心のケアにも邁進しながら【それでも笑顔を保つ】ことが求められる。

危機管理においては、「結実因子」「促進因子」「アセスメント」「ソーシャルサポートと社会的支持」「平衡状態と行動変容」「パーソナリティと認知」「防衛メカニズム」「変化する認知的行動」「専門性の発揮」「連携」の概念で危機介入を捉えることが重要であった。特に、養護教諭には、教職員や児童生徒の危機対応力が十分発揮され、地域との連携ができるマネジメント力も求められていた。

また、一刻を争う場面では、【根拠ある判断・対応とアセスメント、臨機応変な確かな対応】が求められ、【保健医療的な専門知識をもつ教員】として即戦力を期待される存在であり、重い責任がある仕事と捉えていた。さらに、根拠に基づく実践力として、【日頃から確かな救急対応力を養っておく】必要があり、【子ども達の健康状態や行動を注意深く観察する】ことにより、個別性のある対応ができる準備とコミュニケーション能力を養える。一方、【日常の体験や事例検討など学びの工夫で、実践力を磨く】ことができると考えていた。

現場では、多数の軽症者を瞬時にトリアージできるが、校外では、重傷対応が求められることや養護教諭は救急処置のスペシャリストとして、過重な期待を寄せられ、医療機関のような専門的救急対応を求められる。突然の予想しない傷病者対応に、強い不安を抱えながらも、多重課題への救急対応は日常の備えとして必要と考えており、これらの内容を反映して、実践プログラム作成後、実施と評価、検討を重ね、プログラムを構築した。

養護教諭の危機管理能力を高める実践研修プログラム開発は、【イメージしやすい】具

体的で理論的】【日常を振り返られる】【自信につながる】【課題が見える】という効果があり、養護教諭に【自信をつける】【執務に活かせる】【教職員に広げられる】【学校内の役割を活かせる】という自信や確信、さらには教職員との連携を活かせることに寄与していた。また、教職員や児童生徒の救急処置に対する知識・技術の個人差をなくし、すべての教職員と児童生徒の救急処置力を高め、学校全体の危機対応力を高めることに寄与していた。

## (2) 今後の課題

養護教諭の危機管理能力を高める実践研修プログラムには、熱中症、頭部打撲 心肺停止と頭部打撲などの複数同時発生事例「多重課題への救急対応」のシミュレーションで構成した。具体的には、緊急時に第一印象をとらえる方法を確認できる。ABCDに基づいた臨床判断の根拠を確認できる。緊急時の職場連携の方法について確認できる。内容で実施した。しかし、学校種別における傷病の特徴や地域差を考慮することが重要であり、また、教職員や児童生徒の救急処置力を高めるプログラムが求められる。さらに、災害時にも即実践できるプログラム開発と実施、評価を行い、学校の安全管理・安全教育に反映させることが今後の課題である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 岡多枝子、三並めぐる	4. 巻 7
2. 論文標題 AL・SDGsによる福祉科教員養成のレリバンスー教職学生の変容プロセスとエンパワーメント	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 龍谷教職ジャーナル	6. 最初と最後の頁 66-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 2188-4374	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡多枝子、三並めぐる	4. 巻 2
2. 論文標題 保健・医療・福祉専門職を志す学生がアクティブラーニングで獲得するレリバンス	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 健康生活と看護学研究	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 2434-3986	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三並めぐる、河野保子、吉村裕之	4. 巻 2
2. 論文標題 タイでの海外研修を終えて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 健康生活と看護学研究	6. 最初と最後の頁 40-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 2434-3986	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部真理子、三並めぐる	4. 巻 4
2. 論文標題 養護教諭のメンタルヘルス支援プログラム構築に関する基礎資料の検討～レジリエンスの視点から～	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 いのちの教育学会誌	6. 最初と最後の頁 5-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 2423-9003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計23件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Meguru.Minami
2. 発表標題 Preparation of practical training for school nurses to develop their crisis management ability
3. 学会等名 Nursing, Pharmacy, Traditional Medicine and Healthcare sciences 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三並めぐる, 羽藤典子, 上西加奈
2. 発表標題 三次喫煙と子どもに関する文献検討
3. 学会等名 第7回タバコフリー学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三並めぐる、岡多枝子、羽藤典子、上西加奈
2. 発表標題 集団予防接種等によるHBV父子感染に関する実態と支援
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡多枝子、三並めぐる、日川幸江、眞鍋瑞穂
2. 発表標題 看護師・保健師学生に対する社会福祉学教育 当事者性を高めるアクティブラーニング
3. 学会等名 平成30年度全学FD推進プログラム 大学教育カンファレンスin徳島
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三並めぐる 岡多枝子 阿部真理子
2. 発表標題 災害時に求められる養護教諭の役割
3. 学会等名 第10回日本学校救急看護学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三並めぐる、梅田弘子、福島夏実
2. 発表標題 養護教諭が考える危機管理としての救急処置力
3. 学会等名 第47回中国四国学校保健学会学術大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 福島夏実、三並めぐる、梅田弘子
2. 発表標題 発達障害のある子どもの母親の思いと支援 親子と支援者の4000日
3. 学会等名 第47回中国四国学校保健学会学術大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 三並めぐる、岡多枝子、越田明子
2. 発表標題 集団予防接種等によるHBV感染女性の妊娠・出産・育児体験とその支援
3. 学会等名 第22回日本社会医学学会学術大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 岡多枝子、三並めぐる、越田明子
2. 発表標題 B型肝炎被害者の就労困難による「存在の剥奪」
3. 学会等名 第22回日本社会医学学会学術大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 西村友美、三並めぐる、梅田弘子、室谷実愛
2. 発表標題 中国地方5県のタバコ対策について
3. 学会等名 第4回日本タバコフリー学会学術大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 藤田優奈、三並めぐる、梅田弘子、室谷実愛
2. 発表標題 小児のタバコ誤飲に関する検討
3. 学会等名 第4回日本タバコフリー学会学術大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 松岡宏、三並めぐる、廣橋香織、中川秀和、宮下哲一、豊田茂樹
2. 発表標題 NPO法人「禁煙推進の会えひめ」の活動報告～近年の2年間を振り返って思うこと～
3. 学会等名 第6回日本タバコフリー学会学術大会
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 三並めぐる、上西加奈、羽藤典子、岡多枝子
2. 発表標題 肝ガンを発症し死亡した子の母親の経験 集団予防接種によるHBV母子感染
3. 学会等名 第15回日本小児がん看護学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 羽藤典子、三並めぐる、上西加奈、岡多枝子
2. 発表標題 AYAがん患者に必要な復学支援
3. 学会等名 第15回日本小児がん看護学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三並めぐる、羽藤典子、上西加奈
2. 発表標題 次喫煙と子どもに関する文献検討
3. 学会等名 第7回タバコフリー学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三並めぐる、岡多枝子、羽藤典子、上西加奈
2. 発表標題 団予防接種等によるHBV父子感染に関する実態と支援
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡多枝子、三並めぐる、日川幸江、眞鍋瑞穂
2. 発表標題 看護師・保健師学生に対する社会福祉学教育 当事者性を高めるアクティブラーニング
3. 学会等名 成30年度全学FD推進プログラム 大学教育カンファレンスin徳島
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡多枝子、三並めぐる
2. 発表標題 福祉科教員養成教育のレリバンス - ALで獲得した教職学生の成果 -
3. 学会等名 日本保健福祉学会中国・四国地域ブロック第51回高知大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡多枝子、三並めぐる
2. 発表標題 クティブラーニングによる保健・医療・福祉教育のレリバンス
3. 学会等名 SPOD Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education フォーラム2019大学教育の組織力
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡多枝子、三並めぐる
2. 発表標題 ALを導入した保健医療福祉教育のプログラム開発とレリバンスの検討
3. 学会等名 日本保健福祉学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Meguru Minami , Taeko Oka
2. 発表標題 Construction of crisis management practice program in first aid treatment of nursing teacher
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Taeko Oka , Meguru Minami
2. 発表標題 Relevance of Health, Medical, Welfare, Education Program by Active Learning
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Taeko Oka , Meguru Minami
2. 発表標題 Relevance of Health, Medical, Welfare, Education Program by Active Learning
3. 学会等名 International Conference on Advancement in Health Sciences Education and Professions (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 岡多枝子、片山義博、三並めぐる編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 187
3. 書名 B型肝炎被害とは何かー感染被害の真相と被害者救済ー	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岡 多枝子 (Oka Taeko) (30513577)	人間環境大学・松山看護学部・教授  (33936)	
研究分担者	阿部 真理子 (Abe Mariko) (30734165)	横浜創英大学・看護学部・教授  (32727)	